

デジタル田園都市国家構想交付金事業評価シート

			担当課名	社会教育課		事業No.	4			
事業名			藍住町内における阿波藍の復活に関する計画【地方創生拠点整備タイプ】							
目的			藍染料の製造から藍染め製品の制作までの技術を習得させる人材育成拠点として「(仮称)勝瑞藍工房【現：あいずみ藍工房】」を整備し、地域おこし協力隊制度を併用して藍に携わる人材を輩出し、藍関連産業の振興に取り組む。							
実施内容			藍染め普及支援として次の事業を実施。 1) 寝床整備 2) 藍染め工房整備 3) 当施設におけるすくも製造							
重要業績評価指標 (KPI)			指 標		開始前	2019	2020	2021	2022	2023
			すくもの生産量 (単位：kg)	目標		0	1,500	2,000	2,500	3,000
				実績	0	1,400	1,700	1,792	2,000	1,960
			藍の作付面積 (単位：㎡)	目標		0	5,000	6,000	7,000	8,000
				実績	0	3,600	4,600	4,700	6,100	6,174
			技術習得者数 (単位：人)	目標		0	1	2	3	4
				実績	0	0	0	3	4	6
達成度			A：達成 B：概ね達成 ㊟：未達成							

【事業費と財源内訳】

(単位：円)

2023年度	計画額	実績額	交付金充当額	備 考
事業費				2019年度施設整備完了

【2023年度の取組と課題】

あいずみ藍工房を拠点として、町内の畑において藍の栽培を行い、同施設において染の製造作業を実施した。また、製造した染を利用して藍染めの技術向上に努め、同施設において、目標である藍染料の製造から藍染め製品の制作までの技術を習得した人材育成を進めた。

2023年度においては、2名の地域おこし協力隊の任期が満了となり、他地域で起業した。人材は育成しているものの、他地域への流出が多く、本町での藍産業の振興に繋がっていないことが課題と思われる。

【今後の取組】

藍住町内における藍産業の振興を目標として事業を進める。

地域の活性化を進めるにおいて、産業観光の観点も重要であると思われ、文化観光の拠点である藍住町歴史館「藍の館」との連携を進める。

※藍住町地方創生推進会議の意見

・地域おこし協力隊の活動拠点として人材育成はできているが、任期終了後は他地域で起業しているということは、ここで学べる技術は価値があるものと思われる。他地域へ流出してしまうなら、町がお金を出して人材育成をするのではなく、お金を取って技術を学んでもらうような取組を進めてもよいのではないか。

・人材を育成しても県内に留まってくれないと、すくもの製造や藍の生産は安定しないと思う。例えば県が実施している障がい者の職業訓練を活用して、藍の関係で実施するのはどうか。